

教えて! 市立病院



【今月のドクター】
循環器内科部長
上北 洋徳 医師
うえきた ひろのり

日本人の死因の第1位は「悪性新生物（癌）」ですが^{*1}、近年は治療法が格段に進歩して、長生きできる患者さんが増えています。

新しく開発されたがん治療薬の恩恵が大きいのですが、これらは時に心臓や血管に障害を及ぼすことが知られています。例えば、心臓のポンプ機能が低下して心不全

〈第123回〉

癌の治療と心臓の病気について

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

を発症したり、高血圧や不整脈、血栓症を引き起こしたりします。

アメリカで行われた乳癌患者さんの治療経過を観察した研究^{*2}では、乳癌診断後10年目以降では、がんの再発で亡くなる患者さんよりも心血管系の病気で亡くなる患者さんが多くなると報告されています。つまり、がん患者さんが長生きでき、QOL（生活の質）を維持するためには、心血管疾患の早期発見と治療が大切であることが分かります。

当科でもがん治療中やがん治療を受けたことがある患者さんには

このような観点から慎重に診療を行っています。

また、近年の高齢化社会を反映して、もともと心血管系の病気を持っている人が新たになん治療を受けるという状況も増えていきます。がんに対する手術や薬物治療を安全に行うために、心臓超音波検査や不整脈検査、運動負荷検査などを行って心血管系の状態を十分に把握し、適切に管理できるように日々診療をしています。

※1：令和4年（2022年）人口動態統計 厚生労働省

※2：Patnaik, JL et al：Breast Cancer Res. 13：R64, 2011